



宗山流胡蝶 (むねやまりゅう こちょう)

1965年浅草生まれ。幼少より藤間流の日本舞踊を稽古。昭和56年、初のリサイタル公演にて「椿姫」上演。昭和59年4月、国立劇場歌舞伎俳優養成所第八期生として入学。昭和61年2月卒業1ヶ月前に自ら退学、舞踊、芝居、ショーステージにと活動の幅を広げ、新日本舞踊への道に進路を定める。平成8年、創作新日本舞踊「宗山流」を創流。同年12月、日本創作舞踊振興会「北の蛍」にて大賞受賞。平成17年5月、明治座にて創流十周年記念興行「宗山会」開催。宗山流家元として門弟の育成はもとより、舞踊家の構成、振り付けを手がけるほか、リサイタル、ディナーショーなど幅広く出演。



響道宴 (ひびき とうえん)

演出家の松永良男太氏に師事し、舞台人の基礎を学んだ後和太鼓グループのリーダーとして活動。プロとして活動するべく太鼓集団「鼓童」に入座して国内外のツアーに参加した後、1995年にソリストとしての活動を開始。公演・CDのリリースなど太鼓のソロ活動を積極的に行う傍ら、陶芸家・舞踏家・シンセサイザーなど異種表現者とのコラボレーションも行い、近年は和太鼓・尺八・津軽三味線のユニット「和三BOM」も始動し、「やみつき者」を増やしている。創造的でチャレンジ精神旺盛な姿勢と、豊かな感性、確かなテクニックで和太鼓の音楽的な可能性や表現を迫及しているソリストである。



山中信人 (やまなか のぶと)

中学校卒業後15歳で単身青森県弘前市に渡り、津軽三味線奏者「山田千里(やまだちさと)」の内弟子として民謡酒場に住み込み4年間修業。山田流師範となる。津軽三味線全国大会受賞多数(C級、B級優勝、A級入賞5回、唄付け伴奏部門優勝)、海外計10カ国で演奏。小椋佳創作ミュージカル、中島啓江コンサート出演などジャンルを越えた演奏活動もおこなう。約16年にわたり「南中ソーラン」など現代風にアレンジした民謡を演奏する伊藤多喜雄&タキオバンドのメンバーとして活動。現在はソロ奏者として演奏会、学校公演、講演会などで活動中。洗足学園大学現代邦楽非常勤講師。加須市観光大使。



小泉謙一（こいずみ けんいち）

10歳の頃より太鼓を習い始める。99年に和太鼓奏者の第一人者、林英哲のプロデュースする『英哲風雲の会』の太鼓奏者として審査合格。間もなくデビュー。2003年、太鼓奏者としてオーストラリアのプロ太鼓集団『TAIKOZ』に音楽留学。シドニーシンフォニーオーケストラとの共演、オーストラリア国内ツアーに参加。またその他にもシドニーにて『KENICHI KOIZUMI AND FRIENDS CONCERT』を行い高い評価を得る。帰国後、ソロ活動を本格的に展開し、ファーストアルバム「侍-SAMURAI-」を発売。その後、津軽三味線奏者・上妻宏光のアルバムレコーディングに参加し、全国ツアーにも出演。「吉田兄弟全国ツアー」にも出演。近年では、ワークショップやアマチュアチームへの楽曲の提供も手掛けている。



加藤さわ（かとう さわ）

先祖代々約130年続く風呂屋の娘として生まれ、4歳から7歳までを名古屋インターナショナルスクールで過ごす。音楽好きな父親の影響で自宅や窯場ではシャンソンやカンツォーネが常に流れ、曲が聞こえてこない時は自ら歌っていた。高校時代アメリカ留学を経験し、現地の文化祭で(日本語の歌を)歌い、言葉の意味が分からないにも関わらず日本語のフレーズを真似てくれる聴衆を目の前にして、言葉の壁を越える音楽の面白さを知り、その力に強く惹かれるようになる。2007年にSQEXから発売された「すばらしきこのせかい」のサウンドトラックで作詞/歌唱家デビュー。アニメ映画「けいおん！」お笑い芸人CowCowの「あたりまえ体操」英語版の歌唱、日本の童謡、民謡などジャンルを越えた挑戦を続けている。